

(別紙様式3)

令和 4年 2月 10日

道徳教育推進拠点地域事業 完了報告書

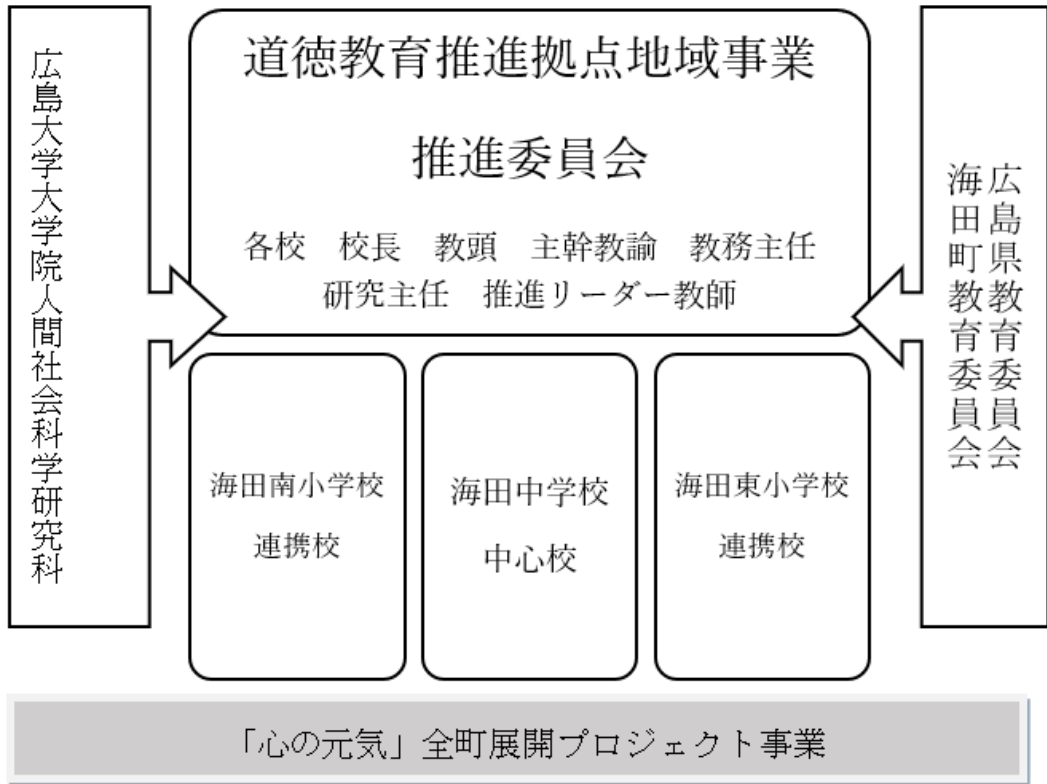
広島県教育委員会教育長 様

団体名	海田町教育委員会
所在地	安芸郡海田町上市 4-14
代表者職名	教育長
	氏名 佐々木 智彦
担当者所属職名	海田町教育委員会学校教育課 主幹
	氏名 立田 春美
電話番号	082-823-9216
FAX 番号	082-823-9256
E-MAIL	gakkyo@town.kaita.lg.jp

令和3年度「道徳教育推進拠点地域事業」の完了報告書を次のとおり提出します。

<p>本事業における目標</p>	<p>小中学校で連携し、児童生徒の発達段階に応じて道徳教育の指導を充実することで、児童生徒の「自己肯定感」を育成する。</p>																				
<p>本事業の成果の検証方法（目標達成状況の把握のための方法及び分析）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査（児童生徒、教職員等） ・i-check調査の分析 ・ワークシートの分析 ・個の変容の見取り 等 																				
<p>本事業の内容（地域の実態や課題に特化した道徳教育の取組）</p>	<p>〈取組の概要〉</p> <p>1 拠点地域の概要 学校名・校長名・児童生徒数等</p> <table border="1" data-bbox="338 902 1412 1115"> <thead> <tr> <th>拠点地域名</th> <th colspan="3"></th> </tr> <tr> <th>学校名</th> <th>校長名</th> <th>児童生徒数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海田町立海田中学校</td> <td>河北 光弘</td> <td>479人</td> <td>中心校</td> </tr> <tr> <td>海田町立海田東小学校</td> <td>石川 和明</td> <td>517人</td> <td>連携校</td> </tr> <tr> <td>海田町立海田南小学校</td> <td>西岡 律子</td> <td>657人</td> <td>連携校</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 道徳教育に係る市町教育委員会の方針や施策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「心の元気」全町展開プロジェクト事業 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が主体となり、学校と家庭が一体となった体験活動の実施 ・清掃活動、植栽活動、挨拶運動等 ・児童生徒の自尊感情を高め、社会参加の意欲や態度、豊かな心の育成 <p>3 研究主題 出合いやかかわりの中で「自己肯定感」を育成する授業づくり ～教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進を通して～</p> <p>4 重点内容項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主として人とのかかわりに関すること ○主として集団や社会とのかかわりに関すること <p>5 研究の概要及び特色</p> <p>(1) 研究課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①他との出合いやかかわりの中で、「自己肯定感」を育成する授業や体験活動の開発・体系化 ②互いの存在を認め尊重し、意見を交換する授業づくり 	拠点地域名				学校名	校長名	児童生徒数	備考	海田町立海田中学校	河北 光弘	479人	中心校	海田町立海田東小学校	石川 和明	517人	連携校	海田町立海田南小学校	西岡 律子	657人	連携校
拠点地域名																					
学校名	校長名	児童生徒数	備考																		
海田町立海田中学校	河北 光弘	479人	中心校																		
海田町立海田東小学校	石川 和明	517人	連携校																		
海田町立海田南小学校	西岡 律子	657人	連携校																		

(2) 研究体制



(3) 研究課題ごとの取組の状況

- ① 出合いやかかわりの中で「自己肯定感」を育成する授業や体験活動の開発・体系化をはかるための道徳教育プログラムの開発を行った。道徳教育プログラムとは、一つのテーマのもとで、道徳科を要として、他教科、領域を横断的に組み合わせて行う教育プログラムであり、カリキュラムマネジメントに基づいて学校全体で行う道徳教育の一環であると位置付け、取組を進めてきた。

【道徳教育プログラム作成上の留意点】（添付資料1-1～1-3）

- 児童生徒の実態や時期から、目指す児童生徒像、それにつながるプログラムを貫くテーマを設定する。
- 生徒の意識の流れを想定する。
- 別葉を活用して、体験活動、体験活動に係る教育内容を持つ教科等を設定する。
- 道徳科において、生徒の学びを深化・統合できる内容項目やねらいを設定し教材を選定して計画を立てる。
- 実施時期の設定を行う。

【道徳プログラムワークシートの作成と活用】（添付資料 2-1～2-3）

児童生徒が道徳教育プログラムを受けるにあたって、それぞれの教科や領域がどのように結びついているかを確認し、学びの段階を意識していけるよう、道徳プログラムワークシートを作成し、授業を実施するたびに学んだことのまとめや感想を記入させていく。

- ② 互いの存在を認め尊重し、意見を交換する授業づくりを行うため、道徳科の指導案の中に、「考え、議論する道徳科の時間を充実させるために」という項目を設定した。その項目には、児童生徒が深くかかわりながら学習を進めていくための方策を記述し、それに基づきながら展開を考えていくことを、中学校区で統一して行った（添付資料 3-1～3-3）。
- 授業では、少人数グループによる意見交換の場の設定や、ICTを活用した、考えや意見の記述、また、ICT上に座標軸をつくって、児童生徒の立場を表明させる「クロス法」の利用などに取り組んだ。

【ICTの活用（jamboardによる少人数グループの意見交換）】

友達と分かり合うためにはどんなことが大切だろうか

相手の立場
を考えて友
達と話し合
う

反省す
ること。

自分にも原
因があるか
もしれない
から

自分がなに
かしたかを
考えて相手
に謝る

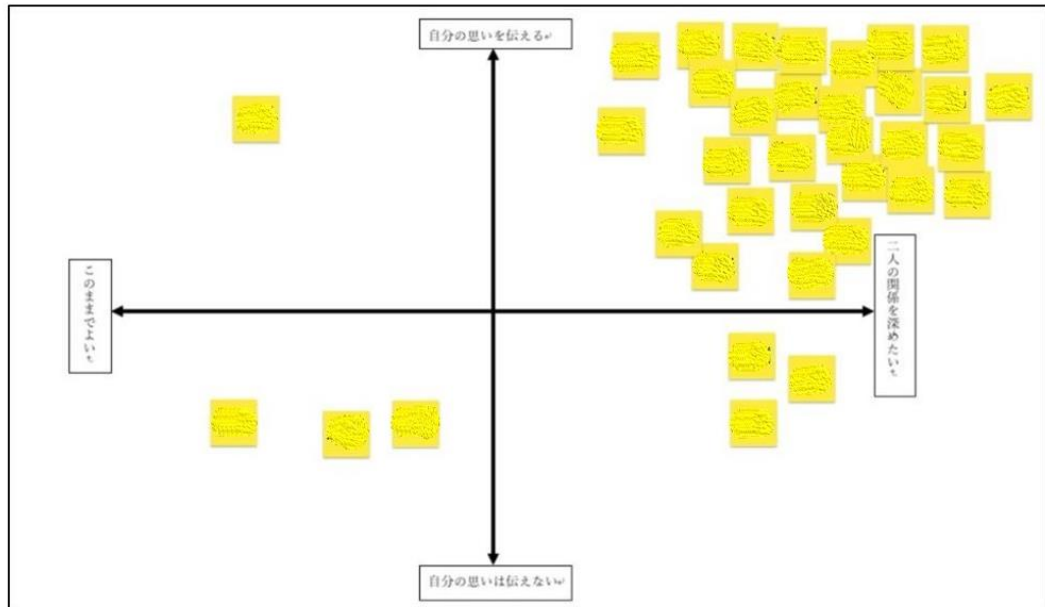
お互いに傷つけ
合わないよう
に気をつけていく

自分の行い
を振り返り
反省する。

傷つかないなら
いままで同じよ
うにして気にな
るなら誰でもい
いから話す

相手の
立場を
考える

【クロス法の活用】



6 研究の評価

「出会いやかかわりの中で「自己肯定感」を育成する授業づくり」を研究主題として研究を進めてきた。その具体的研究課題として、

- ①他との出会いやかかわりの中で、「自己肯定感」を育成する授業や体験活動の開発・体系化
- ③ 互いの存在を認め尊重し、意見を交換する授業づくりの2点を設定し取り組んできたが、その結果、次のような成果と課題が見られた。

<表1 令和3年度5月・12月の調査結果>

	海田南小	海田東小	海田中
	5月→12月	5月→12月	5月→12月
自分には良いところがあると思う	81%→81%	85%→79%	74%→76%
自分の良いところは周りの人からみとめられていると思う。	69%→76%	71%→71%	66%→69%

<表2 教員アンケート結果>

	海田南小	海田東小	海田中
	5月→12月	5月→12月	5月→12月
道徳科の授業では、児童生徒が自分のことを振り返りながら考えるような指導の工夫をしている	96%→96%	96%→100%	95%→100%
道徳科の授業では、児童生徒が友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりするような指導の工夫をしている	78%→86%	88%→96%	90%→100%
児童生徒に道徳性を育成するための体験活動は充実している	65%→83%	64%→79%	73%→67%

表1より、「自分の良いところは周りの人からみとめられていると思う。」については、全体的には改善傾向となった。この数値が向上したのは、道徳教育プログラムや授業づくりに力を入れたことで認められる機会が増えたことによると考える。

一方で、「自分には良いところがあると思う」には、依然課題が残っている。この数値が下がったのは、「自己を見つめる場の設定」が十分ではなかったことなどが考えられる。

表2の教職員対象の道徳アンケートの結果からは、おおむねポイントが上がっている傾向にあり、成果が顕著であるといえる。これは、3校とも校内研修に向けて事前研修をもつことで、日常的に道徳の授業づくりについて会話が増えたこと、生徒の本音を引き出し、考えさせることができた実感ももてたことが要因としてあげられる。体験活動について、中学校の数値が下がったのは、新型コロナウイルス感染症によって、いくつかの予定していた体験活動ができなかったこと、また、代わりとなる体験的な活動を取り入れられなかったことに原因があると考えられる。

7 今後の課題

今後に向けては、成果のあった連携体制を継続しつつ、今年度の成果と課題を踏まえた次年度の諸計画を作成し、確実に引き継いでいきたい。

具体的には、①中学校区の3校が連携をしながら道徳教育を推進していく体制づくりを継続して行う。②今年度の取組を改善し、来年度の道徳教育の諸計画を立案し確実に引き継ぐ。③新しい道徳教育プログラムを構想する。（道徳教育プログラムに、Aの視点（主として自分自身に関すること）を重点的に導入した体験活動の構想等）④児童生徒の道徳性に係る成長や学習状況の評価の工夫をする。などの取組を進めていきたい。

本事業の実 施経過	月	実施内容	備考
	4月	第1回推進委員会（年間計画・役割分担）	海田中学校
	5月	実態調査（アンケート調査） 研究の概要と研究推進計画の説明	各校
	7月	第2回推進委員会（アンケート分析，各校研究の進捗状況の説明，各校研究授業の予定等）	海田中学校
	8月	第3回推進委員会（南小指導案検討） 第4回推進委員会（東小指導案検討）	海田中学校 海田中学校
	9月	第5回推進委員会（南小模擬授業） 海田南小学校研究授業	海田南小学校 海田南小学校
	10月	第6回推進委員会（東小模擬授業） 海田東小学校研究授業	海田東小学校 海田東小学校
	11月	第7回推進委員会（海田中指導案検討） 第8回推進委員会（海田中模擬授業） 海田中学校研究授業	海田中学校 海田中学校 海田中学校
	12月	実態調査（アンケート調査）	各校
	1月	アンケート分析（中心校に報告）	各校
	2月	今年度のまとめ	海田中学校

※ 拠点地域において開発した教材や学習指導案等成果物を添付する。

※ 作成に当たっては，（別紙様式3）【記入上の留意点】を参照する。